

2023年4月27日
株式会社日本政策金融公庫

厳しい状況にあるものの持ち直しの動きがみられる 生活衛生関係営業の景況

生活衛生関係営業の景気動向等調査結果（2023年1～3月期）

（前回）厳しい状況にあるものの持ち直しの動きがみられる生活衛生関係営業の景況

<業況判断DI>（2ページ）

- 業況判断DIは、前期からマイナス幅が16.8ポイント拡大し、▲25.8となった。
- 来期は、マイナス幅が24.0ポイント縮小し、▲1.8となる見通し。

<売上DI>（3ページ）

- 売上DIは、前期からマイナス幅が7.2ポイント拡大し、▲8.6となった。
- 来期は9.0ポイント上昇し、0.4となる見通し。

<採算DI>（4ページ）

- 採算DIは、前期からマイナス幅が3.8ポイント拡大し、▲27.0となった。

<経営上の問題点>（9、10ページ）

- 経営上の問題点は、「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」が53.5%と最も多く、次いで、「顧客数の減少」（53.2%）、「客単価の低下」（18.1%）の順となった。

※ 11ページ以降に業種ごとの業況判断理由を掲載しています。そのほか、本調査で収集した「経営取り組み事例」を日本公庫ホームページに掲載しています（https://www.jfc.go.jp/n/findings/seikatu_kekka_m_index.html）。

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 国民生活事業本部 生活衛生融資部 生活衛生情報支援グループ TEL03-3270-1653（担当：守屋、和知）
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

【調査の実施要領】

調査時点	2023年3月上旬		
調査方法	郵送調査		
調査対象	生活衛生関係営業 3,290 企業		
有効回答企業数	3,126企業（回答率 95.0%）		
（業種内訳）	飲食業	1,430 企業	映画館 62 企業
	食肉・食鳥肉販売業	147 企業	ホテル・旅館業 177 企業
	氷雪販売業	55 企業	公衆浴場業 110 企業
	理容業	421 企業	クリーニング業 259 企業
	美容業	465 企業	

【本調査における留意事項】

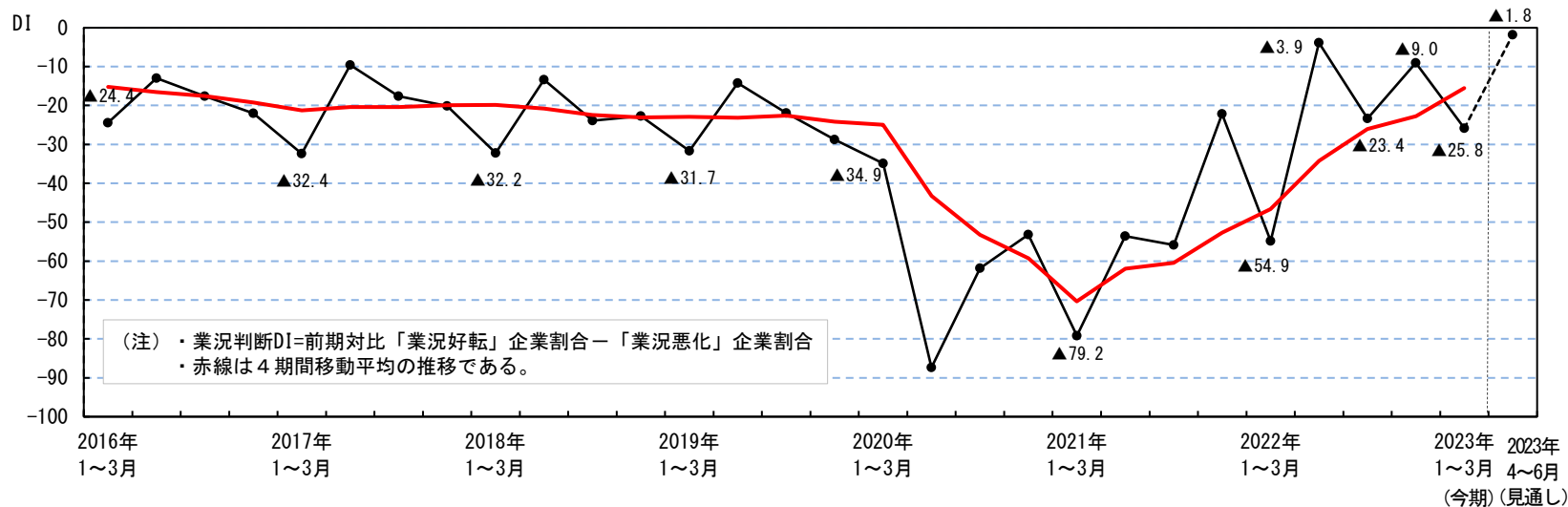
- 2016年4～6月期調査から沖縄県の企業を調査対象に加えている。
- 比率の算出にあたっては、無回答を除いたものを母数としている。

I 景気の動向

1. 業況判断

- 業況判断D Iは、前期からマイナス幅が16.8ポイント拡大し、▲25.8となった。
- 来期は、マイナス幅が24.0ポイント縮小し、▲1.8となる見通し。

図表1 業況判断D Iの推移（全業種計）



図表2 業種別 業況判断D Iの推移（飲食業を除く）

凡例	2022年 1~3月	2022年 4~6月	2022年 7~9月	2022年 10~12月	2023年 1~3月 (今期)	2023年 4~6月 (見通し)
食肉・食鳥肉	▲ 35.8	▲ 6.3	▲ 24.3	▲ 6.5	▲ 22.4	▲ 4.8
氷 雪	▲ 52.7	30.9	31.5	▲ 23.6	▲ 21.8	14.5
理 容	▲ 52.2	▲ 17.3	▲ 24.8	▲ 30.2	▲ 36.8	▲ 11.4
美 容	▲ 48.7	▲ 15.3	▲ 22.9	▲ 23.4	▲ 33.8	▲ 11.0
映 画 館	▲ 20.0	30.6	38.3	9.8	11.3	9.7
ホテル・旅館	▲ 53.3	24.6	23.3	50.6	▲ 3.4	26.6
公衆浴場	▲ 25.7	▲ 27.1	▲ 30.9	▲ 15.2	▲ 9.1	▲ 14.5
クリーニング	▲ 71.8	14.6	▲ 46.6	▲ 12.9	▲ 52.5	▲ 1.5

図表3 飲食業 業況判断D Iの推移

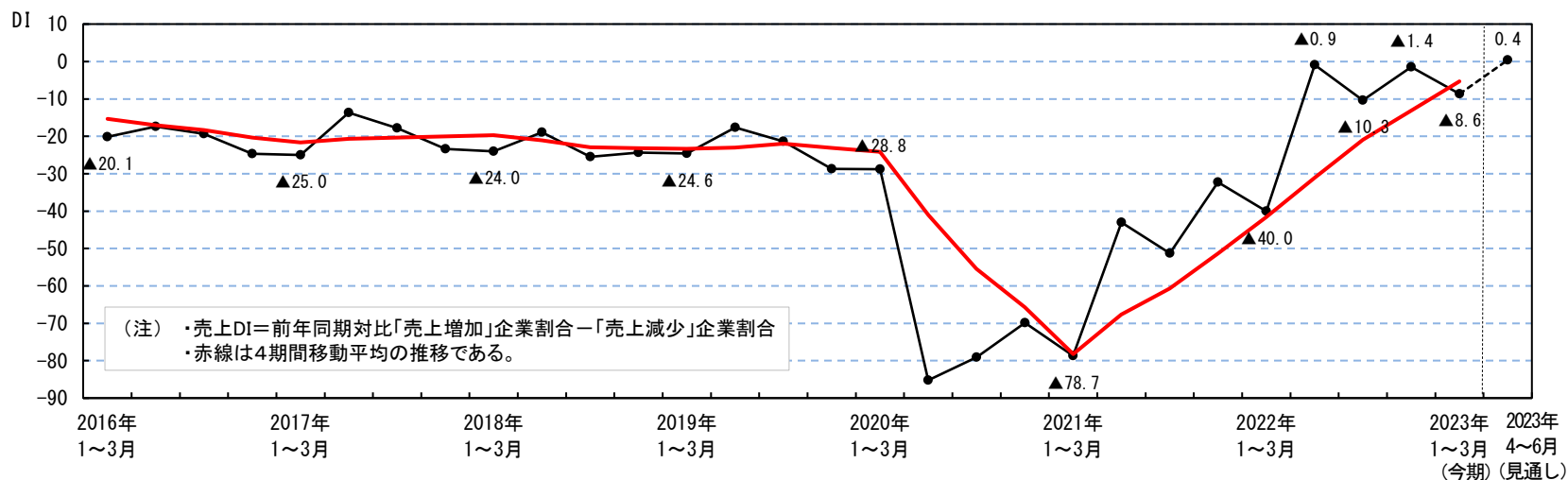
凡例	2022年 1~3月	2022年 4~6月	2022年 7~9月	2022年 10~12月	2023年 1~3月 (今期)	2023年 4~6月 (見通し)
飲食業(全体)	▲ 60.8	▲ 3.9	▲ 28.7	▲ 4.9	▲ 21.3	0.6
そば・うどん	▲ 52.6	2.1	▲ 4.9	▲ 10.1	▲ 23.5	▲ 5.5
中華料理	▲ 62.7	1.8	▲ 20.6	1.9	▲ 13.8	▲ 9.4
す し	▲ 56.0	▲ 10.8	▲ 29.7	▲ 6.4	▲ 30.9	▲ 5.0
料 理	▲ 59.2	▲ 4.7	▲ 39.4	8.3	▲ 13.7	7.3
喫 茶	▲ 58.8	4.3	▲ 29.0	▲ 10.3	▲ 7.0	1.9
社 交	▲ 74.7	▲ 22.1	▲ 56.0	▲ 27.9	▲ 42.4	▲ 0.5
その他飲食	▲ 60.7	▲ 0.2	▲ 25.3	4.0	▲ 16.8	7.5

※ 表中の網掛けは、全業種計の割合を上回るものを表す(以下同じ)。

2. 売上

- 売上DIは、前期からマイナス幅が7.2ポイント拡大し、▲8.6となった。
- 来期は9.0ポイント上昇し、0.4となる見通し。

図表4 売上DIの推移（全業種計）



図表5 業種別 売上DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2022年 1～3月	2022年 4～6月	2022年 7～9月	2022年 10～12月	2023年 1～3月 (今期)	2023年 4～6月 (見通し)
食肉・食鳥肉	▲20.1	3.2	▲15.8	0.0	▲5.4	1.4
氷雪	▲40.0	30.9	40.7	27.3	16.4	12.7
理容	▲36.9	▲20.6	▲22.4	▲26.0	▲29.9	▲19.0
美容	▲40.3	▲17.3	▲23.1	▲22.3	▲23.9	▲13.3
映画館	▲15.0	37.1	50.0	27.9	21.0	8.1
ホテル・旅館	▲25.4	43.2	48.3	62.6	42.0	36.9
公衆浴場	▲15.0	▲9.3	▲25.5	▲6.3	▲6.4	▲4.5
クリーニング	▲52.5	0.8	▲21.4	▲8.7	▲34.7	▲6.2

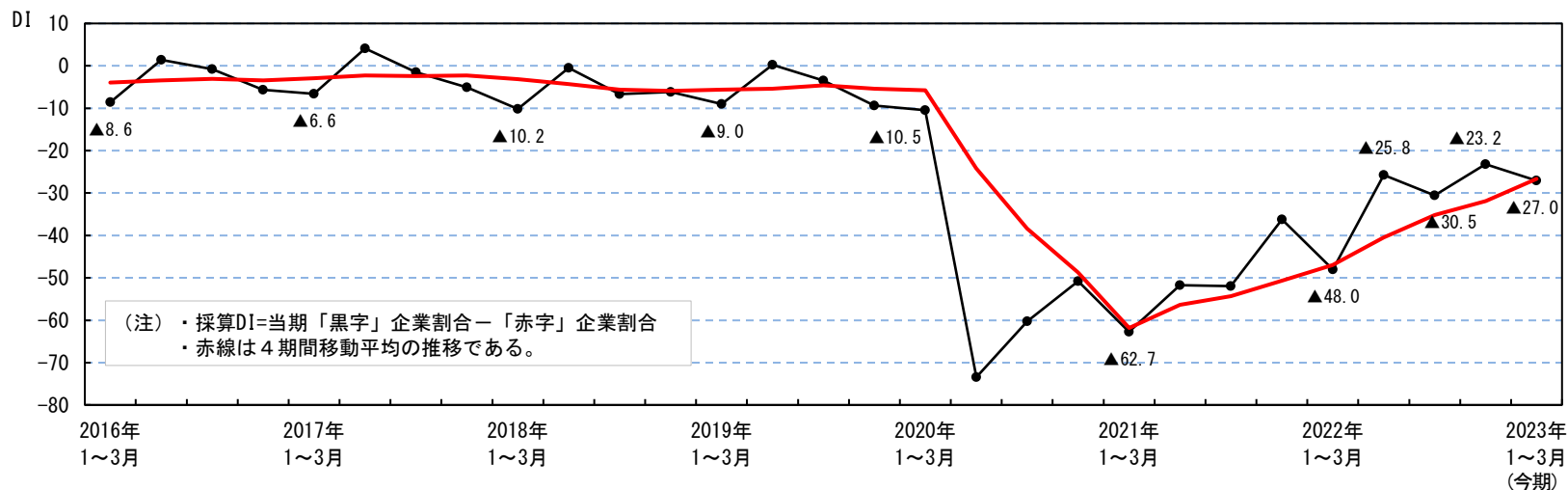
図表6 飲食業 売上DIの推移

凡例	2022年 1～3月	2022年 4～6月	2022年 7～9月	2022年 10～12月	2023年 1～3月 (今期)	2023年 4～6月 (見通し)
飲食業(全体)	▲45.8	1.6	▲10.6	3.8	▲1.7	6.8
そば・うどん	▲36.4	5.3	11.5	8.5	▲7.1	2.7
中華料理	▲56.2	7.3	▲18.7	6.3	▲10.7	▲1.9
すし	▲36.6	2.2	▲8.6	▲1.7	▲5.5	▲3.9
料理	▲49.2	▲1.6	▲13.4	18.0	3.2	18.5
喫茶	▲42.1	7.3	▲13.7	7.1	5.1	10.3
社交	▲59.7	▲18.7	▲32.2	▲15.8	▲12.1	▲4.5
その他飲食	▲43.8	5.5	▲6.1	6.4	6.6	16.9

3. 採算

○ 採算DIは、前期からマイナス幅が3.8ポイント拡大し、▲27.0となった。

図表7 採算DIの推移（全業種計）



図表8 業種別 採算DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2022年 1～3月	2022年 4～6月	2022年 7～9月	2022年 10～12月	2023年 1～3月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 23.3	▲ 4.4	▲ 19.1	▲ 11.6	▲ 10.9
氷 雪	▲ 70.9	▲ 45.5	▲ 29.6	▲ 40.0	▲ 43.6
理 容	▲ 23.4	▲ 12.1	▲ 6.2	▲ 13.4	▲ 14.3
美 容	▲ 28.2	▲ 16.2	▲ 18.3	▲ 16.2	▲ 18.1
映 画 館	▲ 63.3	▲ 41.9	▲ 20.0	▲ 26.2	▲ 19.4
ホテル・旅館	▲ 69.8	▲ 37.7	▲ 32.8	▲ 2.8	▲ 18.6
公衆浴場	▲ 16.8	▲ 3.4	▲ 21.8	▲ 17.0	▲ 9.1
クリーニング	▲ 61.0	▲ 6.9	▲ 32.1	▲ 25.1	▲ 45.9

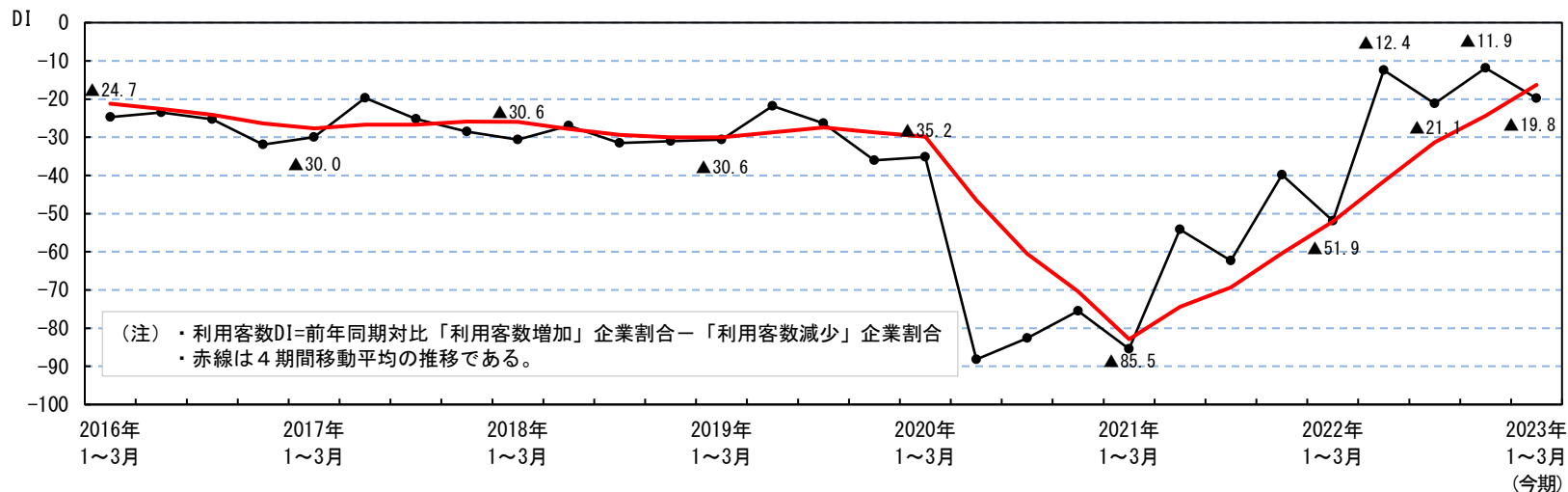
図表9 飲食業 採算DIの推移

凡例	2022年 1～3月	2022年 4～6月	2022年 7～9月	2022年 10～12月	2023年 1～3月 (今期)
飲食業(全体)	▲ 60.6	▲ 37.3	▲ 43.4	▲ 31.6	▲ 34.1
そば・うどん	▲ 48.6	▲ 15.0	▲ 16.9	▲ 2.6	▲ 25.1
中華料理	▲ 54.2	▲ 24.2	▲ 33.5	▲ 23.8	▲ 23.9
す し	▲ 52.6	▲ 32.4	▲ 38.3	▲ 28.3	▲ 29.3
料 理	▲ 71.5	▲ 52.7	▲ 52.8	▲ 42.9	▲ 42.7
喫 茶	▲ 53.8	▲ 30.5	▲ 42.0	▲ 32.7	▲ 31.8
社 交	▲ 78.0	▲ 59.3	▲ 69.0	▲ 57.9	▲ 53.5
その他飲食	▲ 62.6	▲ 41.9	▲ 46.0	▲ 32.7	▲ 32.9

4. 利用客数

○ 利用客数D Iは、前期からマイナス幅が7.9ポイント拡大し、▲19.8となった。

図表10 利用客数D Iの推移（全業種計）



図表11 業種別 利用客数D Iの推移（飲食業を除く）

凡例	2022年 1~3月	2022年 4~6月	2022年 7~9月	2022年 10~12月	2023年 1~3月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲34.0	▲12.7	▲13.2	▲9.0	▲8.2
氷雪	▲63.6	▲3.6	11.1	▲1.8	▲5.5
理容	▲52.0	▲26.3	▲31.7	▲35.7	▲39.7
美容	▲54.3	▲30.1	▲32.1	▲36.0	▲37.8
映画館	▲13.3	29.0	40.0	21.3	12.9
ホテル・旅館	▲37.0	30.1	43.3	54.7	32.4
公衆浴場	▲26.5	▲12.7	▲32.7	▲17.9	▲4.5
クリーニング	▲63.3	▲15.4	▲34.7	▲25.5	▲47.1

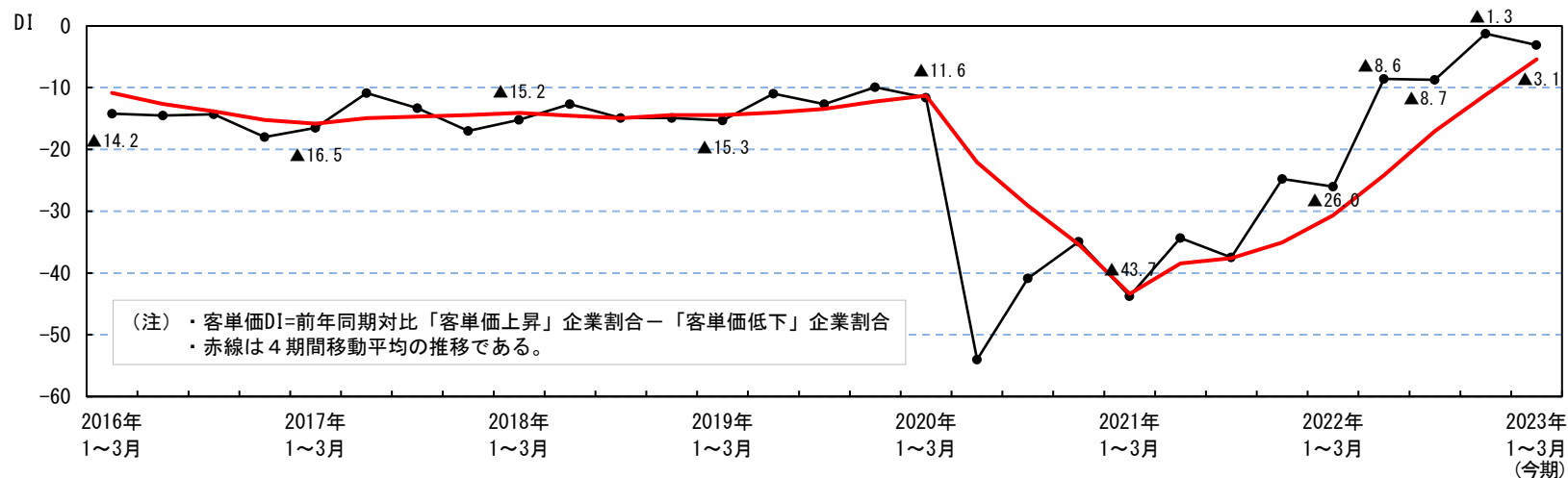
図表12 飲食業 利用客数D Iの推移

凡例	2022年 1~3月	2022年 4~6月	2022年 7~9月	2022年 10~12月	2023年 1~3月 (今期)
飲食業(全体)	▲56.2	▲9.6	▲23.8	▲4.6	▲13.8
そば・うどん	▲45.1	▲3.2	2.7	▲2.6	▲20.8
中華料理	▲66.0	▲13.3	▲19.4	▲6.9	▲17.6
すし	▲55.4	▲9.7	▲29.1	▲10.4	▲13.3
料理	▲60.0	▲8.5	▲23.6	17.3	▲7.3
喫茶	▲59.1	▲4.3	▲24.2	▲11.6	▲11.5
社交	▲64.0	▲31.3	▲47.7	▲27.0	▲28.8
その他飲食	▲51.7	▲3.4	▲23.4	4.0	▲5.4

5. 客単価

○ 客単価DIは、前期からマイナス幅が1.8ポイント拡大し、▲3.1となった。

図表13 客単価DIの推移（全業種計）



図表14 業種別 客単価DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2022年 1~3月	2022年 4~6月	2022年 7~9月	2022年 10~12月	2023年 1~3月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 25.8	▲ 12.7	▲ 21.7	▲ 7.1	▲ 8.8
氷 雪	▲ 47.3	▲ 10.9	▲ 3.7	▲ 12.7	▲ 10.9
理 容	▲ 22.7	▲ 15.4	▲ 18.6	▲ 14.9	▲ 16.4
美 容	▲ 19.7	▲ 13.4	▲ 10.3	▲ 9.5	▲ 11.0
映 画 館	▲ 3.3	▲ 9.7	10.0	3.3	6.5
ホテル・旅館	▲ 9.9	9.3	30.9	45.3	33.0
公衆浴場	▲ 12.4	▲ 3.4	▲ 4.5	4.5	▲ 1.8
クリーニング	▲ 55.6	▲ 9.2	▲ 22.5	▲ 25.1	▲ 31.7

図表15 飲食業 客単価DIの推移

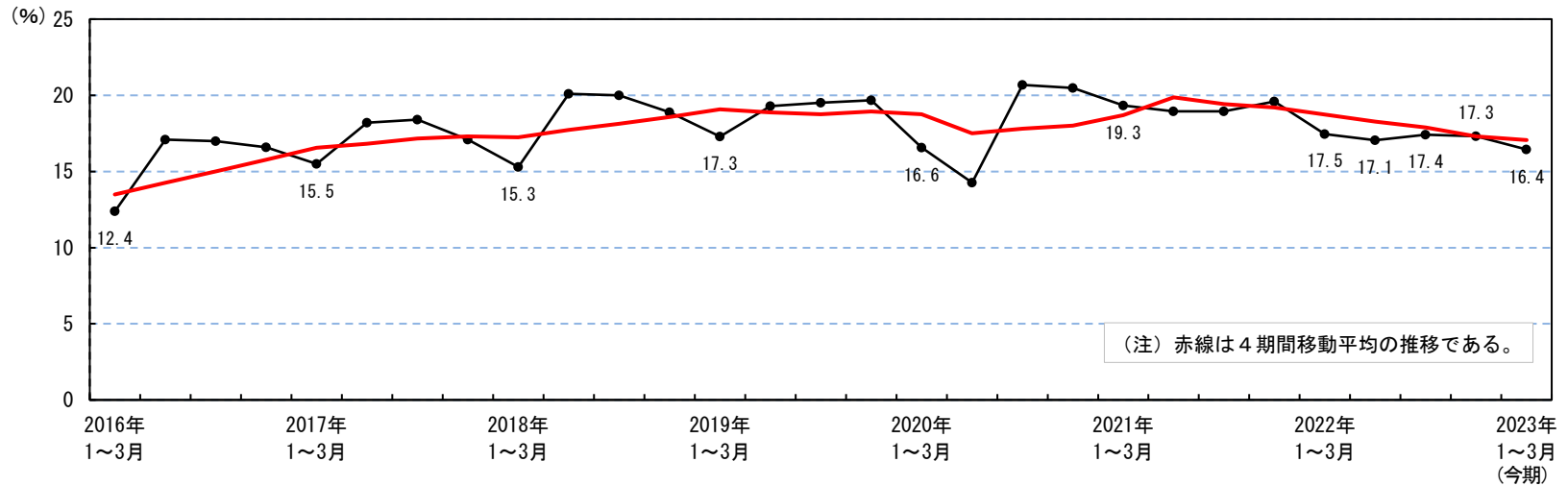
凡例	2022年 1~3月	2022年 4~6月	2022年 7~9月	2022年 10~12月	2023年 1~3月 (今期)
飲食業(全体)	▲ 27.0	▲ 7.0	▲ 7.7	4.4	4.5
そば・うどん	▲ 21.4	▲ 3.7	14.2	10.1	5.5
中華料理	▲ 35.3	▲ 12.1	▲ 10.3	▲ 3.8	▲ 8.2
す し	▲ 28.6	▲ 12.4	▲ 17.7	2.9	▲ 0.6
料 理	▲ 27.7	3.1	▲ 7.1	13.5	8.9
喫 茶	▲ 15.7	2.4	▲ 3.7	5.8	12.2
社 交	▲ 32.3	▲ 14.6	▲ 19.6	▲ 6.1	▲ 4.0
その他飲食	▲ 27.3	▲ 7.3	▲ 8.2	7.1	10.8

II 設備投資の動向

1. 設備投資の実施状況

○ 今期（2023年1～3月）に設備投資を行った企業の割合は、前期から0.9ポイント低下し、16.4%となった。

図表16 設備投資実施割合の推移（全業種計）



図表17 業種別 設備投資実施割合の推移（飲食業を除く）

凡例	2022年 1～3月	2022年 4～6月	2022年 7～9月	2022年 10～12月	2023年 1～3月 （今期）
食肉・食鳥肉	27.7	27.8	28.3	26.5	23.8
氷 雪	9.1	16.4	11.1	21.8	20.0
理 容	10.6	9.7	8.3	8.5	6.9
美 容	11.3	8.2	10.7	10.6	10.3
映 画 館	25.0	19.4	23.3	26.2	33.9
ホテル・旅館	44.0	42.1	42.2	42.2	46.3
公衆浴場	31.9	33.9	34.5	41.1	35.5
クリーニング	13.9	15.0	15.3	17.1	21.2

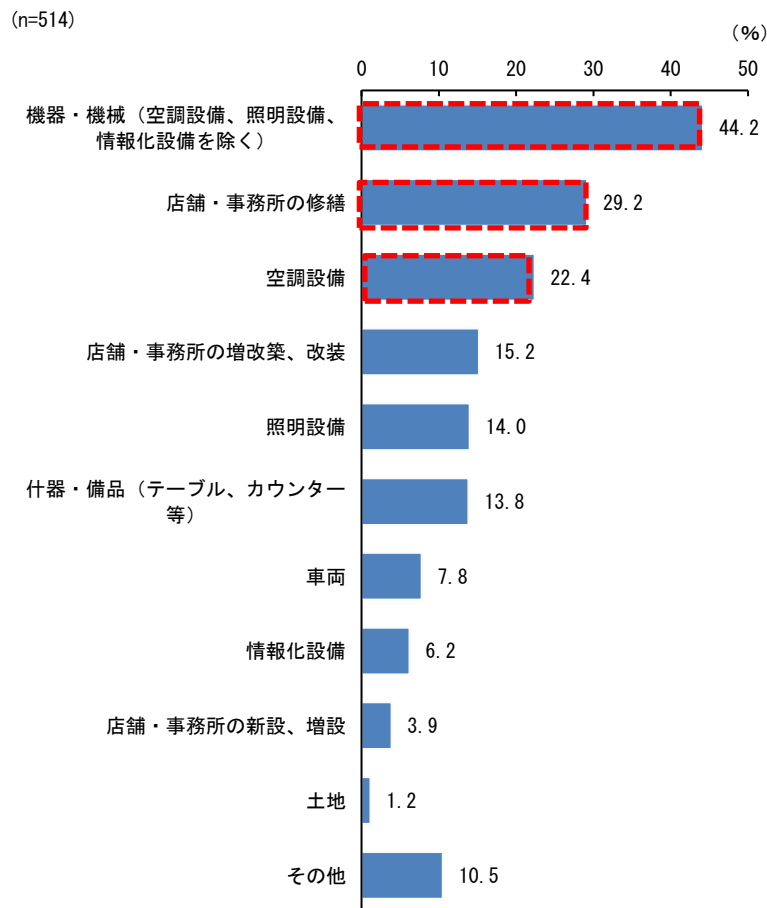
図表18 飲食業 設備投資実施割合の推移

凡例	2022年 1～3月	2022年 4～6月	2022年 7～9月	2022年 10～12月	2023年 1～3月 （今期）
飲食業（全体）	16.5	16.6	17.0	15.6	13.6
そば・うどん	16.2	18.7	21.3	16.4	15.8
中華料理	11.1	13.9	18.7	15.6	11.3
す し	21.7	16.2	16.6	15.6	12.7
料 理	24.6	26.4	29.1	25.6	21.8
喫 茶	14.4	16.5	13.6	11.5	9.6
社 交	7.5	7.5	11.5	8.1	6.6
その他飲食	18.6	18.3	15.1	17.1	16.1

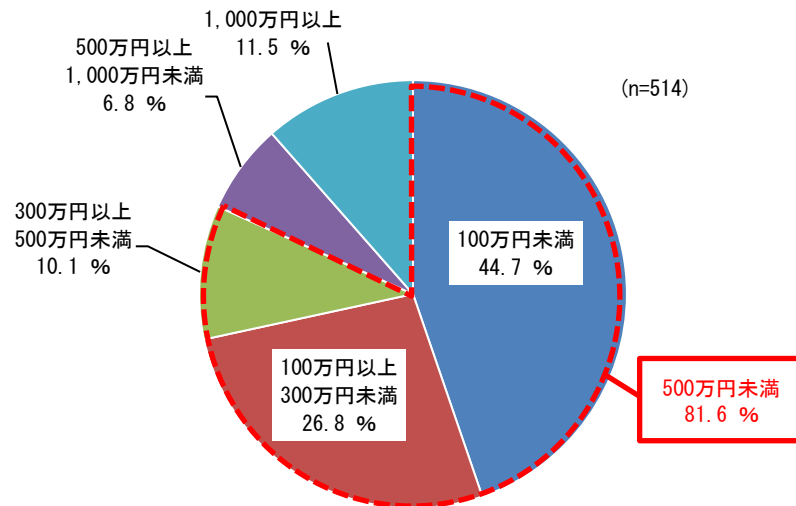
2. 設備投資の内容、設備投資金額、来期の設備投資計画

- 今期（2023年1～3月）の設備投資の内容は、「機器・機械（空調設備、照明設備、情報化設備を除く）」が44.2%と最も多く、次いで、「店舗・事務所の修繕」（29.2%）、「空調設備」（22.4%）の順となった。
- 今期の設備投資金額は、500万円未満が全体の8割超を占めた。
- 来期（2023年4～6月）の設備投資計画については、「実施予定あり」が11.6%となった。

図表19 設備投資の内容
(全業種計、複数回答(金額の大きい順に3つ以内))



図表20 設備投資金額（全業種計）



図表21 業種別 来期の設備投資実施予定割合
(飲食業を除く)

凡例	2023年 4～6月期の予定 (%)
全業種計	11.6
食肉・食鳥肉	17.0
氷雪	9.1
理容	5.0
美容	7.1
映画館	25.8
ホテル・旅館	26.6
公衆浴場	30.0
クリーニング	13.1

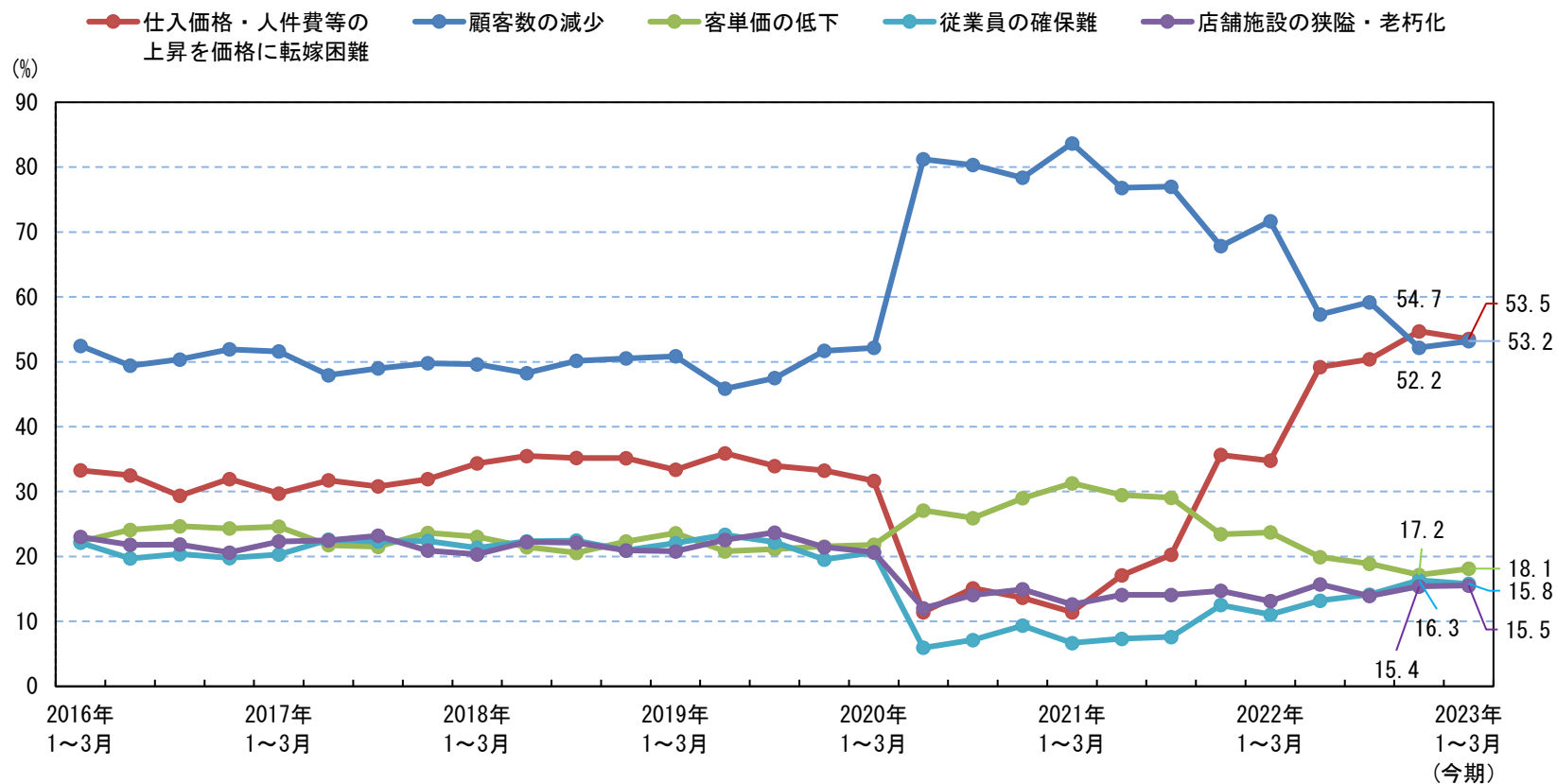
図表22 飲食業 来期の設備投資実施予定割合

凡例	2023年 4～6月期の予定 (%)
飲食業(全体)	10.4
そば・うどん	12.6
中華料理	9.4
すし	7.2
料理	16.1
喫茶	7.6
社交	4.0
その他飲食	13.6

Ⅲ 経営上の問題点

○ 経営上の問題点は、「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」が53.5%と最も多く、次いで、「顧客数の減少」(53.2%)、「客単価の低下」(18.1%)の順となった。

図表23 主な経営上の問題点の推移（全業種計、複数回答（2つ以内））



図表24 業種別 主な経営上の問題点（2023年1～3月）

(%)

項目	仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難	顧客数の減少	客単価の低下	従業員の確保難	店舗施設の狭隘・老朽化	後継者難	事業資金借入難	その他	特に問題なし
全業種計	53.5	53.2	18.1	15.8	15.5	5.2	3.3	4.7	4.9
飲食業(全体)	67.0	52.4	12.7	17.8	11.4	5.1	4.1	3.4	3.6
そば・うどん	71.0	42.1	12.0	19.7	16.9	7.1	2.2	0.5	3.8
中華料理	71.1	47.2	11.9	14.5	14.5	5.0	2.5	0.6	6.9
すし	74.6	48.1	10.5	12.2	9.9	6.6	2.2	7.2	3.9
料理	62.1	56.5	7.3	21.8	8.9	5.6	6.5	0.8	4.8
喫茶	74.5	49.7	9.6	12.7	13.4	3.8	4.5	4.5	4.5
社交	50.0	77.8	18.2	17.2	3.0	2.0	2.5	5.1	2.0
その他飲食	67.1	48.6	14.5	21.5	12.4	5.4	6.3	3.7	2.3
食肉・食鳥肉	72.1	22.4	19.0	15.6	19.7	7.5	2.0	3.4	4.8
氷雪	40.0	61.8	25.5	12.7	12.7	12.7	0.0	1.8	3.6
理容	33.3	59.1	23.0	8.3	12.6	5.7	0.7	8.8	10.7
美容	30.1	64.3	26.7	14.2	13.1	3.2	2.8	5.2	7.3
映画館	32.3	56.5	9.7	24.2	40.3	3.2	3.2	8.1	0.0
ホテル・旅館	57.1	32.2	6.8	38.4	32.2	6.2	8.5	4.0	1.1
公衆浴場	48.2	39.1	4.5	4.5	52.7	9.1	0.9	8.2	4.5
クリーニング	51.4	63.3	37.8	7.7	12.4	3.9	2.7	3.5	2.7

(注) 複数回答(2つ以内)のため合計は100を超える。

Ⅳ 業況判断理由

今期：2023年1～3月 来期：2023年4～6月

(1) そば・うどん

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	栃木県	コロナが落ち着いたので、客足が戻り、売上は増加したが、原材料費や光熱費の高騰により、収益は圧迫されており、前年同期比ではやや好転というところ。
	悪化	神奈川県	原材料費や光熱費の相次ぐ高騰で負担が大きくなっているが、客足が遠のくことを恐れて、メニュー価格に転嫁できない。
来期	好転	長崎県	コロナが収束傾向にあり、入国規制が緩和されることから、インバウンド需要も増えるだろう。
	悪化	佐賀県	仕入価格や光熱費等の高騰が続いている。また、お客さまも家計費の負担が増え、外食頻度が少なくなることが予想される。

(2) 中華料理

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	兵庫県	街中華ブームの影響もあり、全国旅行支援の地域クーポン利用者が多くみられる。
	悪化	静岡県	仕入価格が高騰しているが、他の飲食店との価格競争から値上げはしにくく、利益率が低下している。
来期	不変	群馬県	テイクアウトサービスの充実、出前サービスの継続により、現状の売上は維持できると思う。
	悪化	富山県	中国からの輸入食材も国産同様に値上がりしており、メニューへの価格転嫁もなかなか難しい。

(3) すし

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	福島県	コロナの規制が徐々に緩和され、以前より人の流れが戻ってきたように感じる。少しずつだが、インバウンド客も戻り始めている。
	悪化	和歌山県	食材の値上げに加え、電気代が高騰しており、赤字幅が拡大している。
来期	不変	山梨県	客足は多少戻ってきたが、原材料費や光熱費等の高騰から、収支の厳しさに変わりはない。
	悪化	長野県	物価高騰の影響で外食が控えめになると思うので、売上は伸びないと考えている。

(4) 料理

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	山口県	コロナに慣れたのか、人の流れが戻ってきた。歓送迎会の予約も順調に推移している。
	悪化	宮城県	仕入価格や人件費の急な上昇が利益を圧迫している。また、人手不足のため需要の増加に応えることができず、売上が伸び悩んでいる。
来期	好転	岡山県	4月以降は団体の予約も入ってきている。コロナが5類に移行することにより、さらに客足が戻ってくることを期待している。
	悪化	静岡県	原材料費や光熱費等の上昇はしばらく続きそう。外食から中食へのシフトも進んでいる。

(5) 喫茶

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	大阪府	常連客のほか、県外からの観光客の流れも活発になってきており、ランチを中心に客足は回復している。
	不変	高知県	県のプレミアム付クーポン券の影響で少し客足は回復したが、仕入価格の上昇や経費の高騰により、収益は厳しい。
来期	好転	奈良県	第8波の感染拡大も落ち着いてきており、コロナが2類相当から5類に移行することで、安定した集客が期待できる。
	不変	愛知県	珈琲豆の仕入価格や光熱費の高騰が続いており、客足が多少増えても、収支の改善は見込めない。

(6) 社交

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	青森県	新年会や歓送迎会に期待したが、一次会向きの居酒屋等は繁盛していたものの、二次会でスナック等を利用する客足は戻ってきていない。
	悪化	山梨県	コロナ禍による客数の減少と物価高騰の直撃で回復にはほど遠い。
来期	好転	大分県	5類への移行で規制等がなくなれば、歓送迎会や花見等のイベントから流れてくる二次会需要の回復が期待できる。
	不変	沖縄県	コロナ対策が緩和されたとしても、何年も続いた家飲み習慣から客が戻ってくるのか不安がある。

(7) その他飲食

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	石川県	全国旅行支援により観光客が多く見られるようになった。また、地域クーポンの効果で、客単価アップにも繋がっている。
	不変	北海道	客足は戻ったものの、従業員の確保が困難なため、営業時間をやりくりするのが難しく、現状維持が精一杯である。
来期	好転	茨城県	春に向けて外出やイベントの増加が見込まれ、店内でのマスクが不要になるなどコロナ規制も大幅に緩和されることから、好転を期待している。
	不変	愛媛県	春の行楽シーズンで昼の集客は見込めるが、食材等の高騰で利益の回復は見込めそうにない。

(8) 食肉

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	茨城県	コロナの影響で中食が定着しており、精肉のほか自家製の総菜や加工品の需要が増加している。
	悪化	新潟県	近隣の大型店との価格競争が続いており、経費や仕入価格の高騰を売値に転嫁できない。
来期	不変	秋田県	コロナが5類に移行することで、これまでの自粛モードが解除されるだろうが、物価高騰の影響により、見通しは明るくない。
	悪化	長崎県	物価の急激な上昇で経費が大幅に増加するのは必至。収支のバランスがさらに悪化するだろう。

(9) 食鳥肉

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	岡山県	コロナの行動制限がなくなったことにより、焼鳥店などの飲食店が回復し、卸売部門の需要が戻ってきている。
	悪化	鹿児島県	鳥インフルエンザの流行が原因で、仕入価格の高騰に加え、鶏肉が品不足になり苦戦している。
来期	好転	東京都	花見など行楽のイベント等が実施されれば、焼鳥や総菜の需要が増すだろう。
	悪化	大阪府	飼料価格の高騰や鳥インフルエンザによる鶏肉の供給減、消費者の買い控えで厳しさが増すだろう。

(10) 氷雪

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	東京都	今期はコロナによる行動制限がないので、飲食店からの需要が多少回復している。
	悪化	和歌山県	コロナの影響もあるが、製氷に係る電気代の負担が大きく、さらに厳しくなっている。
来期	好転	長崎県	コロナが5類に移行して、コロナ前の水準でイベント等が開催されることを期待している。
	不変	大阪府	コロナ禍から回復しつつあるが、お客さまが自粛を続けているため、元の状態に戻るにはまだまだ時間がかかるだろう。

(11) 理容

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	青森県	コロナ感染者数が落ち着き、客足は戻ってきているが、電気代や暖房費等の経費支出が増加しており、厳しさに変わりはない。
	悪化	神奈川県	物価高騰の影響が大きく、お客さまの来店サイクルが延びている。
来期	不変	山口県	コロナ感染への根強い警戒感や物価高騰の影響が続いており、来店サイクルの改善は難しい。現状と変わらないだろう。
	悪化	栃木県	物価高騰の影響もあり、コロナが5類になっても高齢者の外出控えは続くと思われる。

(12) 美容

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	大分県	旅行やイベント等で外出する機会が増え、お洒落志向のパーマ利用客が増えている。
	悪化	埼玉県	コロナ禍以降、顧客の来店回数が減少し、規制が解除されても回復していない。また、顧客の高齢化や諸物価の高騰による影響も大きい。
来期	好転	宮城県	来期は入学式などの行事があり、GWなど行楽シーズンにも入るので、人の動きが良くなるだろう。
	悪化	富山県	固定費の上昇が続くが、固定客中心のため、すぐには価格転嫁できない。

(13) 映画館

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	福井県	作品のヒットの恩恵もあり、ファミリー層もシニア層も客足が戻ってきている。
	不変	福岡県	コロナ禍でも少し客足が戻ってきていたが、電気代や暖房代等の経費負担が大きく、収益改善にはつなげていない。
来期	好転	埼玉県	来期に放映される新作に期待ができる。コロナが5類に移行することで、さらに集客が見込まれる。
	不変	静岡県	売上は伸びているが、食材費や光熱費が高騰しており利益に繋がっていない。この状況はしばらく続くだろう。

(14) ホテル・旅館

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	長野県	全国旅行支援の効果で、県外からの出張客や観光客の宿泊予約が順調に推移している。
	不変	徳島県	全国旅行支援の影響で宿泊予約は好調だが、仕入価格や光熱費等の高騰により、利益率が下がっている。
来期	好転	静岡県	コロナが5類に移行し、入国規制等が大幅に緩和されれば、インバウンド客が増加すると期待している。
	不変	大阪府	コロナの5類への移行で旅行の頻度は増すかもしれないが、スタッフの人手不足からこれ以上の接客対応は難しい。

(15) 公衆浴場

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	京都府	コロナ感染者数が減ったことで、固定客の利用は安定している。また、全国旅行支援で県外の出張者や観光客が増えた効果もでている。
	不変	神奈川県	客足は戻りつつあるが、燃料費等の高騰や老朽化による修繕費の増加が足かせとなっている。
来期	不変	大阪府	サウナブームは当分続くと期待しているが、燃料費の高騰や諸物価の上昇が経費の増加を招き、経営を圧迫している。
	悪化	兵庫県	燃料であるガスの料金や電気代の高騰が続くと予想される。

(16) クリーニング

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	香川県	物価高騰で家計費支出を抑える動きがあり、厳しさに変わりはない。
	悪化	北海道	閑散期に加えて、燃料費高騰により、採算が悪化している。
来期	好転	石川県	来期は春の衣替えのシーズンにあたるので、客数の増加と客単価アップが見込まれる。
	不変	山口県	来期は売上が伸びる見通しだが、経費がどこまで上昇するか分からない。